

事業名	姉妹都市・友好都市交流事業
-----	---------------

総事業費	580 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	観光・交流の振興
	基本事業名	交流事業の推進

② 実施 (Do)

事業の意図	各市との姉妹都市・友好都市と交流事業を行う。	
事業の実績 と成果	取組内容	関係自治体等との連絡調整・交流
	成 果	4年ぶりに鉄砲まつりが開催され、姉妹都市・友好都市との交流を実施することができた。また、日本ポルトガル交流480周年、ヴィラ・ド・ビスポ市盟約30周年の節目であったことから、記念事業として実施された火縄銃大会を通じて、ポルトガル大使も祭りに参加することで、市民との交流を深めることができた。また、ヴィラ・ド・ビスポ市へ手紙を送る事業や学校給食でのポルトガル料理提供など、関連する事業を実施することができた。併せて、ヴィラ・ド・ビスポ市とのリモート会議を両国大使参加により実施した。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	現在、祭り等のイベントを通じた交流が基本となっている。交流を進めていく上では、観光や文化などの様々な分野での対応が必要となることから、関係課等と一体となった情報共有や事業の検討が重要である。ポルトガルとの交流は、大使館等の支援をいただきながら、情報交換を定期的に実施していくことが必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	4年ぶりの鉄砲まつり開催に伴い姉妹都市・友好都市との交流を実施した。また、日本ポルトガル交流480周年、ヴィラ・ド・ビスポ市盟約30周年の節目でもあり、鉄砲まつりにポルトガル大使を招き交流を深めたり、ヴィラ・ド・ビスポ市へ手紙を送る事業や学校給食でのポルトガル料理を提供するなどの事業を通して交流を図ったところである。 課題としては、現在の交流事業は祭りを基本に進めているが、他の分野での交流の在り方を模索していく事も必要であると考えます。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	各自治体との祭り等を通じた交流を実施する。
-----------	-----------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	各種交流事業について、市政の窓を通じて市民にお知らせ。

事業名	種子島ふるさと応援隊事業
-----	--------------

総事業費	426 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	観光・交流の振興
	基本事業名	交流事業の推進

② 実施 (Do)

事業の意図	・ 応援隊を知ってもらう。 ・ 応援隊に入会してもらう。	
事業の実績 と成果	取組内容	出郷者会への参加、ふるさと応援隊員へ広報誌「市政の窓」等の送付、種子島ふるさと交流大会の開催等
	成 果	4年ぶりに種子島ふるさと交流大会を実施し、目標以上の参加があった。 ゴルフ大会参加者 1 1 1 名（うち島外参加者 2 1 名）、交流会参加者 9 8 名（うち島外参加者 2 3 名）

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	ふるさと応援隊の入隊者数が伸び悩むとともに、高齢化により脱退が増えてきているため、隊員の確保が必要となっている。 種子島ふるさと交流大会の今後のあり方を検討する必要がある。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	○本市の交流人口で支援・応援者でもある「種子島ふるさと応援隊」の会員数は令和 5 年度末で 183 名と年々、減少傾向にある。新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度までは各出郷者の会が中止となり、出郷者の会開催時等において加入促進の P R 活動が出来ず入隊者数が伸び悩んでいるのが現状である。高齢化により脱退する隊員も増加しているため新規の隊員を増やす取組として、「二十歳のつどい」開催時における P R 活動と S N S 等を活用した情報発信を行うとともに、種子島ふるさと応援便のような魅力ある活動を継続して実施することで隊員の確保に繋げる。 ○隊員相互の情報交換・交流を促進し、出郷者による本市の支援組織・ネットワークを構築することで、市と出郷者・出郷者同士をつなぎ、提言・モニター・広告・販路拡大等の一役を担ってもらう。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	出郷者とのつながりを持ちながら、本市施策の推進や交流人口の拡大を目指す。
-----------	--------------------------------------

事業名	TANEGASHIMACUP事業	総事業費	560千円
-----	------------------	------	-------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	観光・交流の振興
	基本事業名	交流事業の推進

② 実施 (Do)

事業の意図		・参加艇を増やし、市内への交流人口を増やす。 ・参加者を増やし、市内への宿泊者増につなげる。 ・サブイベントの開催により市民の交流の場を創出する。
事業の実績 と成果	取組内容	本年から、これまでの美浜沖～山川港沖のコースから、美浜沖～中種子町浜津脇沖に変え、島民が身近に観戦できるようにした。サブイベントとして、ビーチコーミングや巡視船たちほの乗船イベントも実施。
	成 果	コースも島民が観戦しやすい形となり、種子島の効果的な観光コンテンツである海を活かしたイベントが実施できた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	馬毛島の工事により港の安全使用が困難になるため、工事が終わる間、休止とした。同工事によりホテル等やレンタカー不足、特産品である地元産の海産物の水揚げ減少など、観光客の誘致に厳しい状況となっている。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	一定の宿泊等、経済効果があるので施策に結び付いている。また、西之表港の整備計画も進められており、今後も効果的な展開が期待される。一方で、馬毛島の工事、西之表港改修工事により港内の安全性や宿泊場所等の課題があり、数年の事業休止を経て本事業を再構築する。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	島民がさらに関心を持てるような仕組み、内容にする。
-----------	---------------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	種子島カップヨットレースの様子

事業名	グリーン・ツーリズム推進事業
-----	----------------

総事業費	604 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	観光・交流の振興
	基本事業名	交流事業の推進

② 実施 (Do)

事業の意図		・教育旅行の受入を増やし、入込客数の増加を狙う。 ・市民にも広く認知してもらい受入体制の充実を図るため受入家庭を増やす。 ・農林漁業体験を通して、教育旅行で訪れる学生との交流を図り、市民とのつながりを構築する。
事業の実績 と成果	取組内容	専門員を配置し、誘致活動、問合せ対応、研修会充実などを行う、集客等交流等活性化事業から移行し、事業を一本化。 グリーン・ツーリズム受入体制整備事業と連動させながら、都市部と農林漁村の人々との交流による、第一次産業と観光の活性化のために、受入体制の充実に取り組んだ。
	成 果	R5年度はコロナ禍以降、4年ぶりの受け入れとなった。久しぶりの本格活動で会員も戸惑いを隠せないものの、グリーン・ツーリズム事業を通じ、教育及び福祉の事業にも幅を持たせた活動も企画するなど今後の発展的な取組へ意欲を見せている。R6年度は伊佐グリーンツーリズム協議会との交流事業も計画している。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	受入家庭の高齢化が顕著であり、新型コロナウイルスの影響を気にする声が多く聞こえた。コロナ禍の中での受入についての研修会等に積極的に参加していただき、安心・安全な活動ができるよう支援していく。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	コロナ禍以降、4年ぶりの受け入れもあり、会員も戸惑いを隠せないものの、今後の発展的な取組へ意欲を見せている。特に、姉妹都市である伊佐市との教育旅行を中心とした交流強化を進めていきたい。一方で、会員の高齢化も進み、体制の再構築が必要である。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	令和4年度はコロナ禍で実績なし。今後の活動も先行き不透明であるが、受入れの再開を目標に、会員スキルアップ向上と新たなメニュー開発に取り組む。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	歓迎の様子

事業名	鉄砲まつり事業	総事業費	12,000 千円
-----	---------	------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	観光・交流の振興
	基本事業名	交流事業の推進

② 実施 (Do)

事業の意図	より多くの市民がまつりに参加することで、郷土意識や相互の理解を深めてもらう。 観光客等の誘客を行い、市の観光振興や交流人口の増加を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	4年ぶりの完全実施かつ鉄砲伝来480周年を盛り上げるため、種子島鉄砲まつり実行委員会等で実施項目について検討し、祭り運営を関係団体と連携し進めた。
	成 果	全国火縄銃大会も前日に行われ、また4年ぶりの完全実施であり、多くの来場者が訪れ盛んに実施することができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	参加者や協力団体の人手不足など課題はあるが、祭り内容については絶えずブラッシュアップを図り続けていくことが必要である。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	4年ぶりの実施となった鉄砲祭りだったが、事故もなく盛んに実施された。かつ鉄砲伝来480周年の節目として、全国火縄銃大会も実施され、多忙な中においても盛んに実施できた。市民の反応も良く、馬毛島工事関係者の参加もあり、価値あるイベントとなった。一方で、担い手不足は他事業と同じで顕著であり、今後の課題でもある。市民が注目する内容の企画、交付金を活用した「花火」をレベルアップした取り組みが期待できる。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	4年ぶりの完全開催に向け取り組んでいくこととなるが、2023年は前日に全国火縄銃大会を実施することとなる。
-----------	---

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	配布ポスター

事業名	ウェルネスツーリズム推進事業
-----	----------------

総事業費	12,513 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	観光・交流の振興
	基本事業名	交流事業の推進

② 実施 (Do)

事業の意図		交流人口の拡大と健康増進を図る
事業の実績 と成果	取組内容	ヨガの聖地をツールとしたウェルネスツーリズムの推進を図るため、また、島外からの交流人口の拡大を図るため、イベントツアーの実施や種子島の魅力発信のための映像制作、クリアファイルなどのPR資材の制作を行った。
	成 果	ヨガを活用したウェルネスツーリズムとして、島内外の参加者に種子島の魅力を体体験してもらえた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	様々な観光コンテンツを組み合わせるなど、もう一泊したいと旅行者に思わせるような地域の魅力の旅行商品化を積極的に立案していくことが重要。観光協会等との細かな協議が必要となる。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	補助事業としての展開は終了したが、コンテンツとしての「ヨガ」は継続していく。特に、インバウンド需要が高まっていく中において、最も効果的なツールとして位置づけられる。実際に、関係団体との信頼構築はできており、インド大使館との繋がりもできているため、今後、具体的に共同できる展開を作り、更に関係強化を図っていく中で、人的・物的交流に繋げることが期待できる。

④ 改善 (Action)

2024年度方向性	前年度同様の取組を進めていくが、魅力の旅行商品化を積極的に立案するためには、観光協会等との細やかな協議が必要となる。
-----------	--